

5 - 1 「施設」による対策工法の分類（例）

配慮のポイントを考える上での「施設」の種類としては、水の流れ、生息環境の違いから、「用水路・排水路」、「水田及び小水路」及び「ため池」に区分でき、配慮項目としては、「自由な移動」「生息が可能な環境」「食性、産卵床の確保」に大別される。

配慮のポイントを「施設」の種類、「配慮項目」の組み合わせにより整理すると以下ようになる。

施設区分	配慮項目	配慮のポイント
用水路・排水路	自由な移動（連続性）を確保	河川と水路の落差による分断を解消 水路間の落差による分断を解消 水路と近傍の林の間に緩衝地帯を設け、水辺と緑地の連続性を確保
	生息できる複雑な流れや深みを確保	平水時の流速を部分的に抑制して、深みや浅瀬をすることで魚類の休息、避難、食餌の場の確保 生息に必要な流速を緩衝地帯の設置により確保
	食性、産卵床の確保	プランクトンや昆虫などの餌場を作るため、護岸を多孔質にする 産卵床となる水草の生息環境の確保 既存承水路の一部を種の供給源として残存 湿地帯を造成し、藻類を移植
水田及び小水路	自由な移動（連続性）を確保	水路と水田の移動を確保するため落差をなくす
	生息できる複雑な流れや深みを確保	鳥類の越冬地として水田を利用 水田に水のない期間の避難場所を近傍に設置する
	食性、産卵床の確保	豊かな産卵床である水田と水路との分断を解消する
ため池	自由な移動（連続性）を確保	ため池と水路の移動を確保 ため池と近傍の林の間に緩衝地帯を設け、水辺と緑地の連続性を確保
	生息できる複雑な流れや深みを確保	水温の上昇を抑えるため水面に影を落とす
	食性、産卵床の確保	プランクトンや昆虫などの餌場を作るため、護岸を多孔質にする 産卵床となる水草の生息環境の確保 湿地帯を造成し、藻類を移植